

新ビル巡り



▲「日総第16ビル」パース



▲1階の共有部

日総ビルディングの新規開発物件、「日総第16ビル」は新横浜で8棟目のオフィスビルとなる。新横浜三丁目のアリーナ通り沿いに立地し、植栽との調和が図られている。各専有部のアリーナ通り側は、天井高3200mの高さを活かしながらのカーテンウォールを採用。事務所からの眺望の良さに加え、建物そのものを行灯とみためが照らし幻想的な光景を作り出す。

今年10月末、JR「新横浜」駅近に新ビルが竣工した。事業主は、都心や横浜、新横浜に多くの開発実績を有する日総ビルディング（東京都港区）。日々新しい顔を作り出す同エリアに、今現在、どのような開発案件が立ち上がるかとしているのか。

強気の坪1万6500円もビルのグレードに見合うもの

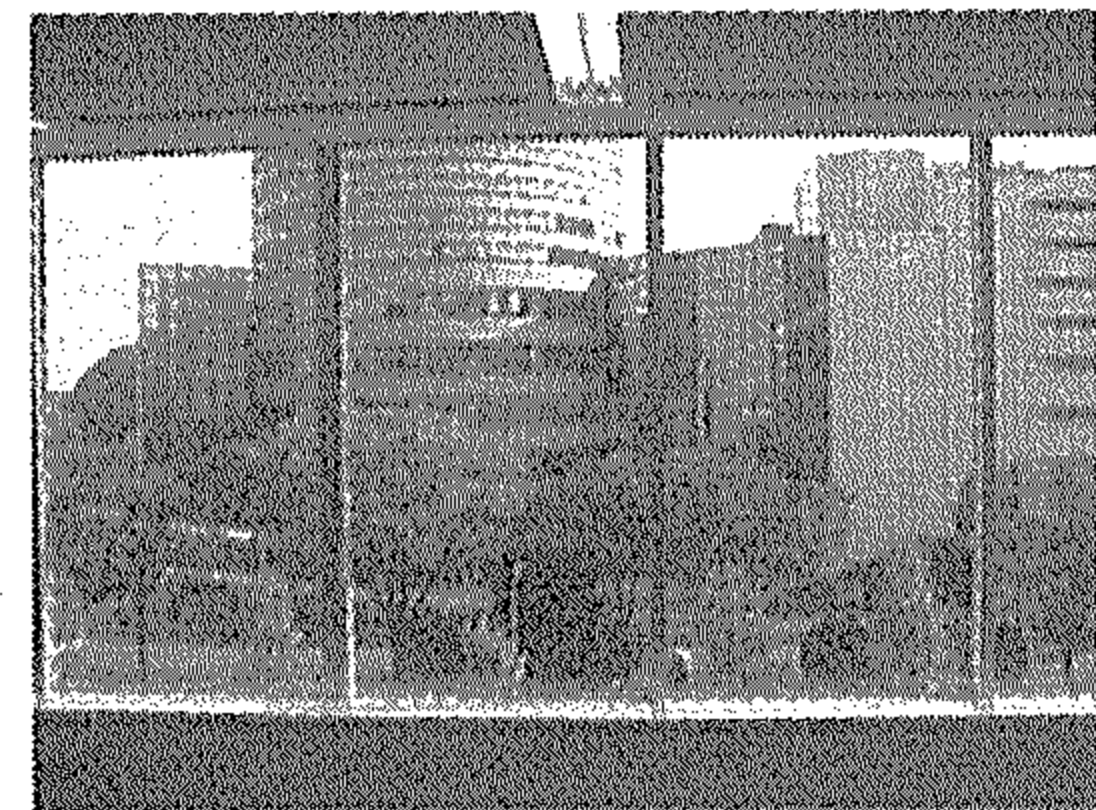
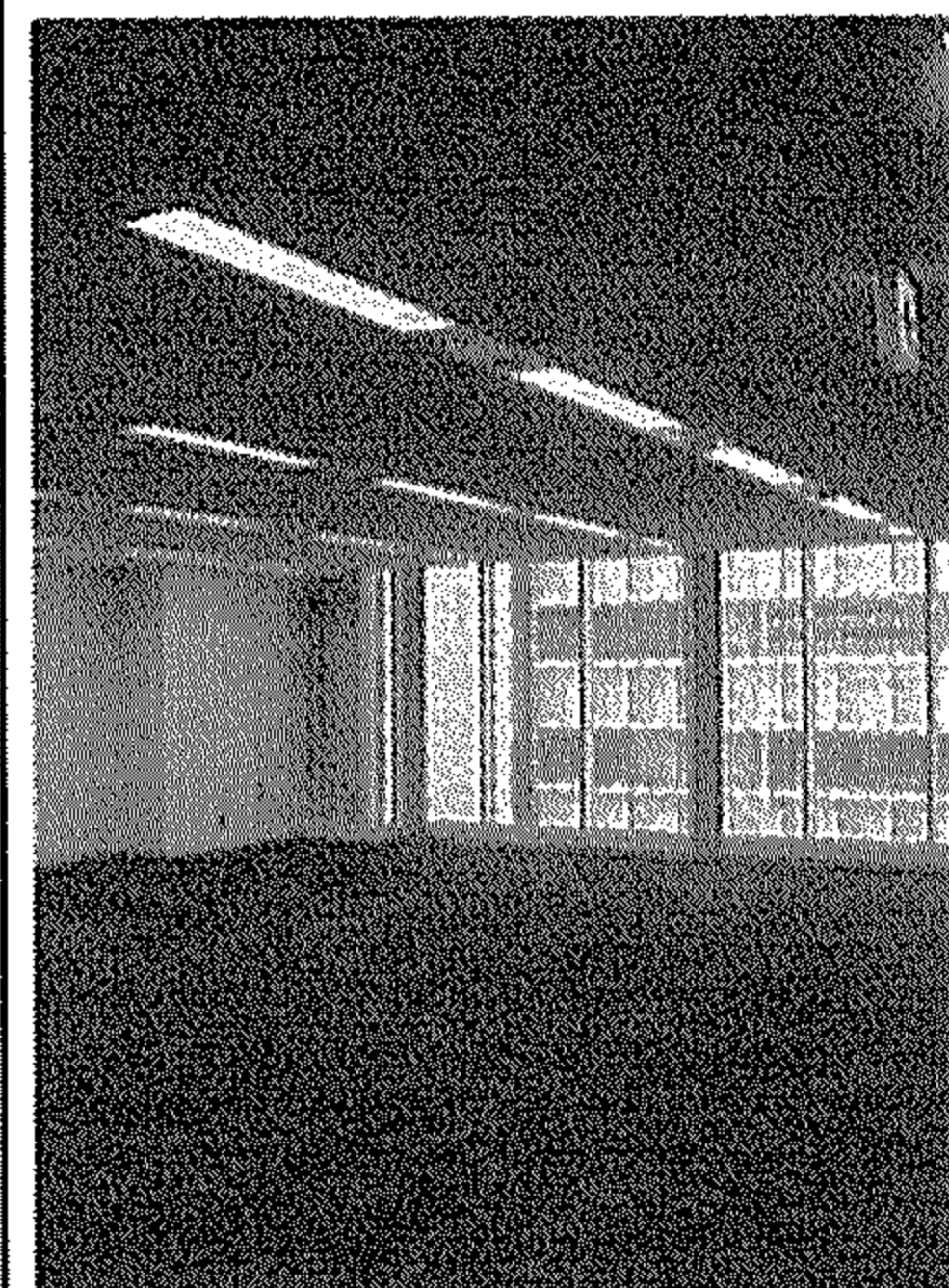
現在新横浜は開発案件のラッシュ期だ。オフィス需要が高いと見込み、当初の計画ではホテルだった「(仮称)新横浜3丁目PJ」はオフィスへと転換。地上15階地下1階、延床面積2万4873㎡の大型物件は平成20年7月に供給される。また、セントラルアベニュー交差点角地に開発中の「新横浜三丁目ビル」も、地上8階地下3階、延床面積2万1030㎡の大型物件。平成20年にはJR「新横浜」駅ビルの「新横浜中央ビル」も完成するとあって、更に街の風景は変化していきそうだ。

「当社は、昭和50年代より横浜駅西口の彫刻通り沿いでの一体開発からオフィスビル開発をスタートしました。昭和60年代に入り、新横浜へと進出したのですが、当時は現在のようないビジネス街が形成される前であ

り、いち早く「日総第11ビル」(現・クレシェンドビル)を開発した町であったが、そこへ進出した同社現代表は先見の明があったといえる。現在は、テナントは高いグレードのオフィスを選ぶ傾向にある。その流れの中で、同社は「ス

日総ビルディング編

新横浜・アリーナ通りに行灯ビル誕生 建築デザインと照明効果で昼夜目印に



▲ガラス窓を大きく設置

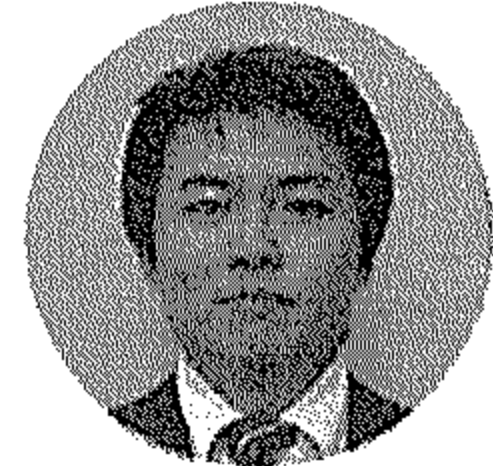
▲2700mmの天井高を確保

高品質ビル供給で街に寄与

当社は20年前より、新横浜を首都圏における主要な産業拠点の街とするべくオフィスビルの開発を進めてきました。現在では、「日総第16ビル」を含め8棟のオフィスビルを、更に活性化していく

日総ビルディング

開発部 堀木 洋平氏



| 日総第16ビル | |
|---------|----------------|
| 所在地 | 横浜市港北区新横浜3-8-8 |
| 敷地面積 | 680.81㎡ |
| 建築面積 | 506.72㎡ |
| 延床面積 | 5630.07㎡ |
| 規模 | 地上11階地下1階塔屋1階 |
| 構造 | 鉄筋鉄骨コンクリート |
| 施工 | 大成建設 |